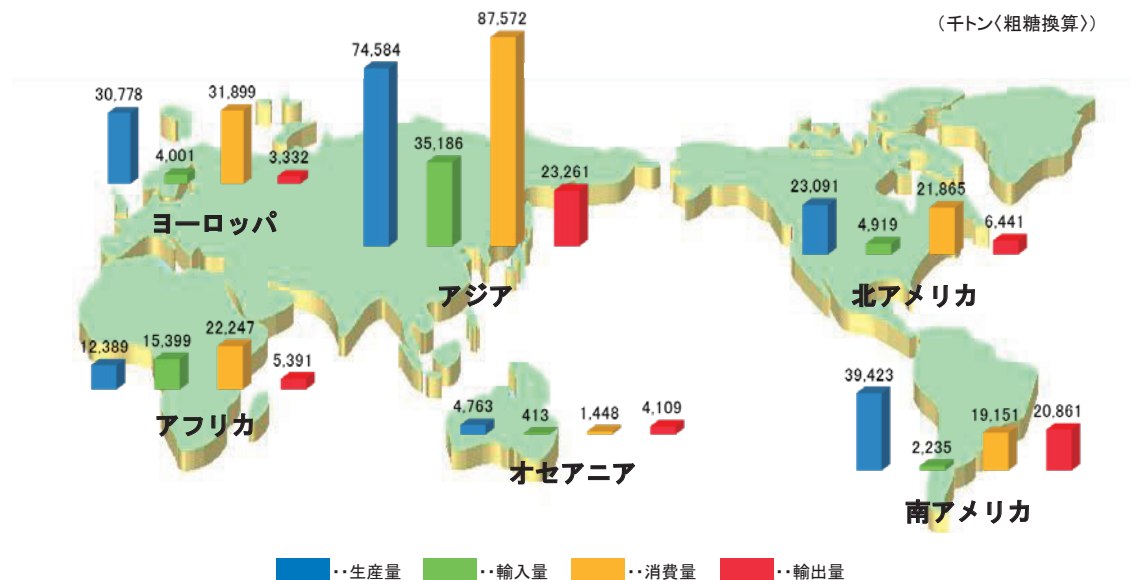


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2018年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,102	160,315	56,023	164,765	56,244	50,430	30.6
2013/14	63,414	184,058	58,323	175,214	61,044	69,537	39.7
2014/15	69,537	183,717	59,707	176,522	62,081	74,357	42.1
2015/16	74,357	175,955	67,776	179,679	69,077	69,333	38.6
2016/17	69,333	180,545	70,699	181,896	70,739	67,943	37.4
2017/18	67,943	194,476	65,748	182,295	67,364	78,507	43.1
2018/19 (2018年9月予測)	76,057	188,440	63,753	185,014	64,896	78,339	42.3
2018/19 (2018年12月予測)	78,507	185,027	62,152	184,888	63,394	77,404	41.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001876.html

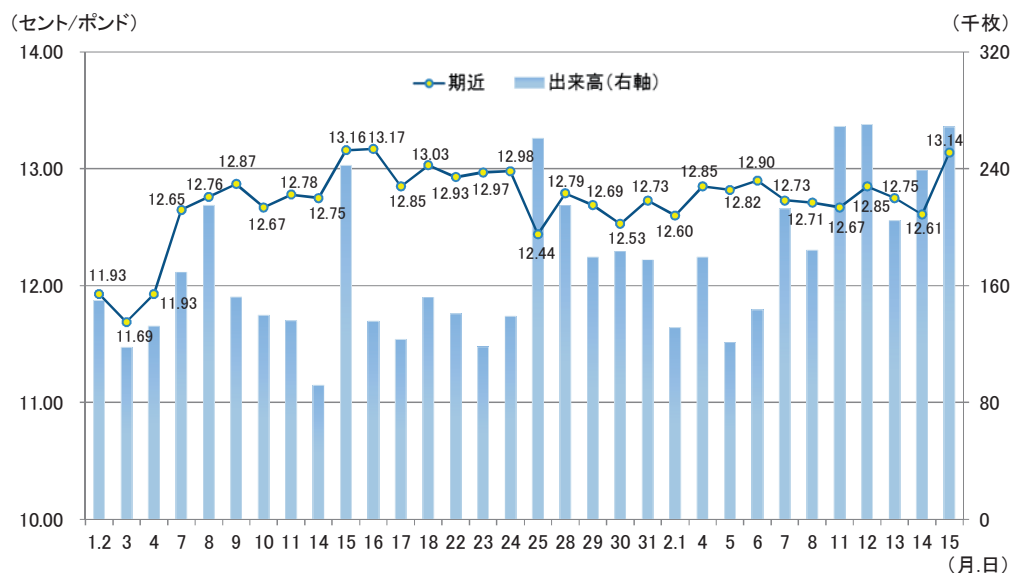
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001877.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/2～2/15）

～1月中旬以降大きな動きはなく、1ポンド当たり12セント台を維持～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（3月限）^{がつぎり}2019年1月の推移を見ると、2日は、砂糖の主要生産国であるインドやタイのサトウキビ生産予測量が上方修正されていることが相場の押し下げ要因となり、1ポンド当たり11.93セント（注1）となった。翌3日は、原油価格の下落の影響も加わり、同11.69セントと3カ月ぶりの安値水準となった。4日は金融市場全体の相場が上昇したことを受け、同11.93セントまで値を戻した。週明けの7日は、ブラジルやインドの天候への懸念、石油輸出国機構（OPEC）主導の協調減産が相場をさらに押し上げ、同12.65セントと約3週間ぶりの高値となった。その後数日間もみ合いが続いたが、15日は、原油価格の上昇を受けて急伸し、同13.16セントまで値を上げた。17日は、リアル^{（注2）}安がブラジルの砂糖輸出を促進

することや、原油価格の下落によってバイオエタノールの優位性が低下し、ブラジルがサトウキビを砂糖生産に仕向けるとの見方が強くなったことなどが相場を圧迫し、同12.85セントまで値を下げた。その後数日間もみ合いが続いたが、25日は同12.44セントまで値を下げた。28日は、同12.79ポンドまで値を上げ、2月に入っても同12セント台でもみ合いが続いた。15日は、原油高が砂糖相場の押し上げに寄与し、一時1月16日以来の高値となる同13.25セントまで上昇したが、結局同13.14セントで取引を終えた。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）ブラジルの通貨。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年2月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年1月末日TTS相場の値であり、1 ブラジル・レアル=32円（31.61円）、1 中国元=16.55円、1 米ドル=110円（109.96円）である。

ブラジル

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：872万ha（前年度比1.2%増）
生産量：6億1250万トン（同4.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3135万トン（同24.4%減）
輸出量：2014万トン（同35.0%減）

2018/19年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年2月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、872万ヘクタール（前年度比1.2%増）とわずかな増加が見込まれている。一方、サトウキビ生産量は、北東部地域の全域と中南部地域の一部で高温少雨が続き、生育の遅れが見られることから、6億1250万トン（同4.5%減）とやや減少が見込まれている（表2）。砂糖生産量は、国際価格の低迷に加え、砂糖価格よりエタノール価格が高く推移し、サトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが加速すると予測されるため、3135万トン（同24.4%減）と大幅な減少が見込まれている。輸出量は、主要輸出相手国である中国が追加関税措置を実施していることなども影響して、2014万トン（同35.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

少雨が影響し、2019/20年度のサトウキビ生産量は伸び悩む見込み

ブラジルの大手製糖業者の一つであるSão Martinho社によると、2018年12月から2019年1月にかけて、国内の主なサトウキビ生産地である中南部地域の降雨量が平年を下回って推移したことから、2019/20年度におけるサトウキビ生産量は伸び悩むと予測されている。同社は、気温が高く乾燥した気候となったことでサトウキビの初期生育が抑制されたことを理由に、4月ごろから始まる2019/20年度のサトウキビ収穫量を前回予測から5ポイント下方修正した。

同社は、ブラジルだけでなくインドの砂糖生産量も減少することで、今後数カ月のうちに砂糖の国際価格は回復すると予想しており、国際価格が回復すれば、来年度はサトウキビを砂糖に仕向ける割合が増え、エタノール生産量は今年度ほど増加しない可能性があるとしている。

同社によると、2018/19年度の4月～12月における純利益は、サトウキビ圧搾量の減少や砂糖の国際価格の低下が影響し、前年同期比32%減の2億2800万レアル（72億9600万円）となった。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

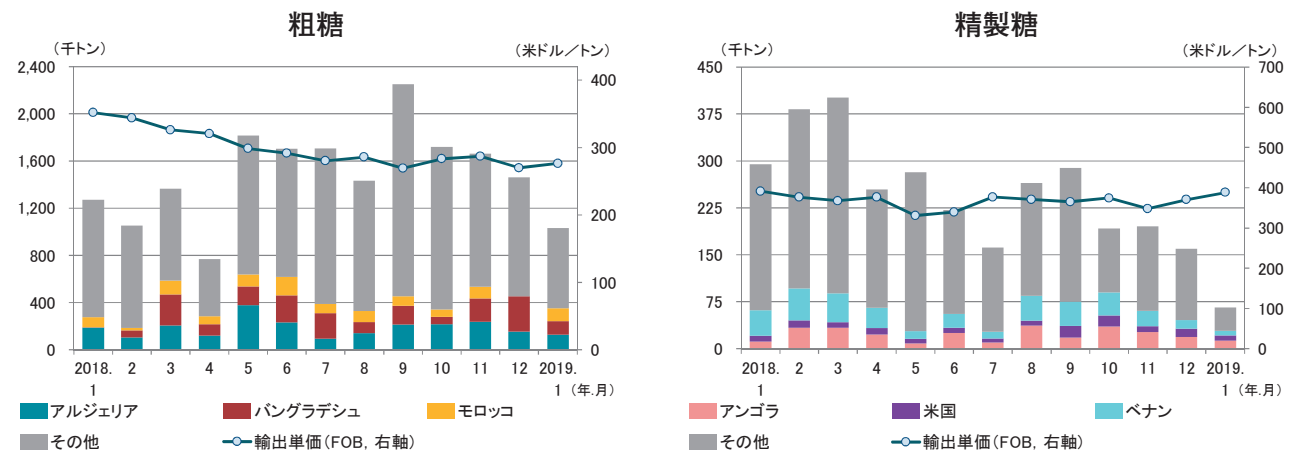
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,188	8,488	8,617	8,719	8,719	1.2
サトウキビ生産量	666,824	651,841	641,066	612,500	612,500	▲ 4.5
砂糖	生産量	36,472	41,670	31,050	31,350	▲ 24.4
	輸入量	1	4	3	3	25.0
	消費量	12,057	11,502	11,211	11,211	1.0
	輸出量	26,023	30,117	19,839	20,140	▲ 35.0
	期末在庫量	739	794	199	198	1.1
	期末在庫率	1.9	1.9	0.5	0.6	0.17 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：512万ha（前年度比6.1%増）

生産量：3億8854万トン（同1.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3386万トン（同2.5%減）

輸出量：416万トン（同76.2%増）

2018/19年度、砂糖生産量は減少する一方、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は512万ヘクタール（前年度比6.1%増）とかなりの増加が見込まれている。マハラシュトラ州やカルナータカ州において干ばつや害虫の大量発生がサトウキビの生育を阻害したことから、サ

トウキビ生産量は3億8854万トン（同1.2%減）（表3）、砂糖生産量は3386万トン（同2.5%減）と、いずれも先月の見通しより改善したものの、わずかな減少が見込まれている。輸出量は、政府が製糖業者に対し500万トンの最低輸出義務を課している影響で、416万トン（同76.2%増）と大幅な増加が見込まれている。

2019/20年度の砂糖生産量、3000万トン以下に減少か

現地報道によると、2019/20年度の砂糖生産量は、主要なサトウキビ生産地で高温・少雨の月が多かったことが影響して、直近の3年間で最も減少する可能性がある。全国協同組合砂糖工場連盟(NFCSF: National Federation of Co-operative Sugar Factories)によると、2019/20年度の砂糖生産量は、精製糖換算で3000万トン以下まで減少すると見込まれている。インドにおいて砂糖生産

量第2位のマハラシュトラ州の政府によると、同州の一部地域で極端に雨が少なかったことからサトウキビの植え付けが進まず、現在の作業進捗から推測すると、サトウキビの作付面積は減少するとみられる。また、砂糖生産量第3位のカルナータカ州でも、同様の気象被害を受けており、マハラシュトラ州と同じ要因で作付面積が減少すると考えられる。

NFCSFは、2019/20年度の砂糖生産量が減少する見込みを受けて、2018/19年度の砂糖輸出にマイナスの影響が出る可能性があるとしている。

表3 インドの砂糖需給の推移

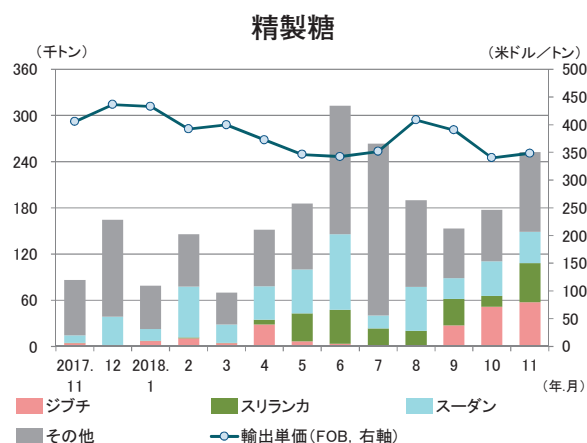
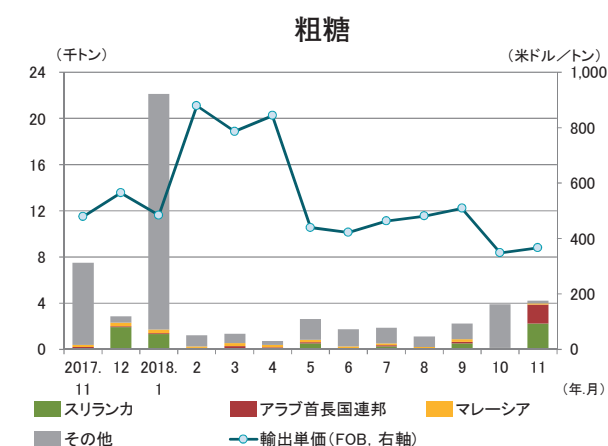
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	4,806	4,327	4,827	5,120	5,120	6.1
サトウキビ生産量	356,871	306,070	393,320	381,215	388,539	▲ 1.2
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	32,348	▲ 2.5
	輸入量	2,146	2,536	2,291	1,121	▲ 51.1
	消費量	26,784	26,568	26,930	27,434	1.9
	輸出量	3,955	2,233	2,361	4,160	76.2
	期末在庫量	8,370	3,952	11,672	13,547	29.0
	期末在庫率	27.2	13.7	39.8	42.9	47.7
						7.8 ポイント増

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）

生産量：7859万トン（同2.4%増）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（同30.5%増）

生産量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1146万トン（同2.8%増）

輸入量：586万トン（同2.6%減）

2018/19年度、砂糖生産量はわずかに増加、輸入量はわずかに減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれ、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表4）。てん菜の収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（ドイツの調査会社であるF.O.リヒト社によると、内モンゴル自治区などの生産者は、政府がトウモロコシ支援政策を変更^{（注）}したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、てん菜への転作を進めている）。7月～10月にかけて天候に恵まれ、原料作物の増産が期待できることから、砂糖生産量も、1146万トン（同2.8%増）と増加が見込まれている。また、輸入量は、586万トン（同2.6%減）とわずかな減少が見込まれている。

（注）政府は2016年4月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

広西チワン族自治区で、砂糖50万トンの臨時備蓄を決定

中国最大の甘しや糖生産地である広西チワン族自治区の政府は、50万トンの砂糖を一時的に備蓄することを発表した。現在の国内市場価格は1トン当たり5000元（8万2750円）前後であるが、同政府はそれよりも高い同6000元（9万9300円）で買い上げるとしている。砂糖の備蓄期間は、2019年2月1日から6月30日までの5カ月間とされている。広西チワン族自治区における砂糖の工場渡し価格は2018年以降大幅に下落し、4年ぶりの低水準となっていることから、同自治区の政府は砂糖の備蓄によって砂糖価格の回復を図っているとみられる。

表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,219	1,219	▲ 1.0
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	78,590	78,590	2.4
てん菜収穫面積	136	168	186	243	243	30.5
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,670	11,670	21.7
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,461	2.8
	輸入量	7,910	5,715	6,015	5,852	▲ 2.6
	消費量	16,847	16,847	16,931	17,142	1.2
	輸出量	181	146	195	170	▲ 10.7
	期末在庫量	11,926	10,689	10,724	10,717	0.0
	期末在庫率	70.0	62.9	62.6	61.9	0.7 ポイント減

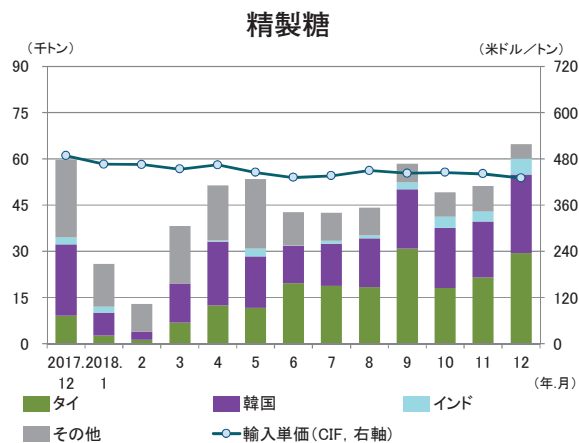
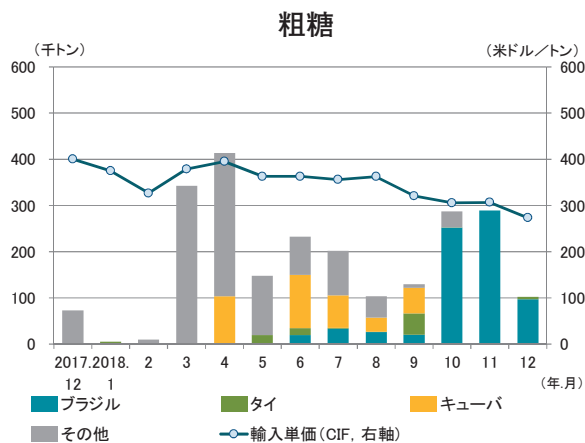
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

さらに、製糖業者の財政健全化を図るため、製糖業者と生産者との間でサトウキビ代の支払い期限を

3カ月に延期することが合意された。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：172万ha（前年度比1.0%減）
生産量：1億1712万トン（同15.4%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1879万トン（同13.1%減）
輸出量：190万トン（同50.1%減）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少し、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は172万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれているが、生産量は1億1712万トン（同15.4%減）とかなりの減少が見込まれている（表5）。てん菜生産量の減少に加え、てん菜に含まれる不純物が多いことも影響し、砂糖生産量は1879万トン（同13.1%減）とかなり減少する見込みである。輸出量は、てん菜が減産となったことで、190万トン（同50.1%減）と、平年並みに戻ると見込まれている。

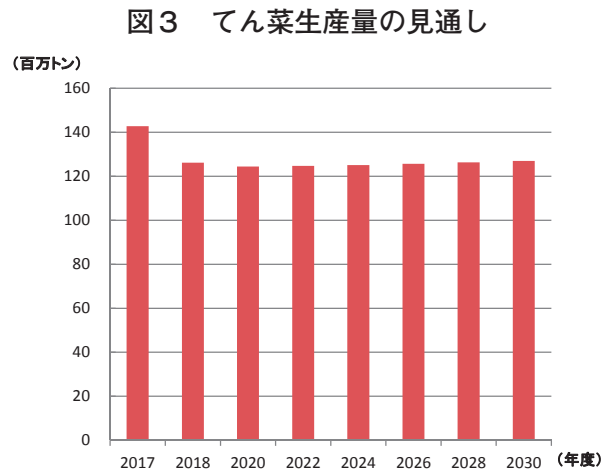
欧州委員会、農畜産物の中長期需給見通しを発表

欧州委員会は2018年12月6日、EUにおける農畜産物の中長期需給見通しを発表した。てん菜生産量は、作付面積の減少に加え、近年の単収の伸び悩みが影響し、ほぼ横ばいで推移すると見込まれている（図3）。砂糖の消費のうち、化粧品や医薬品産業における工業的な需要は、今後12年間で8%上昇する見込みである。一方、1人当たりの砂糖消費量は、消費者の健康志向の高まりにより低カロリー甘味料や小型包装の食品の需要が増加することや、EU各国で導入されている砂糖税の影響により糖類を含む飲料の需要が低下することで、今後12年間で7%減少し、2030年には1年当たり27.8キロ

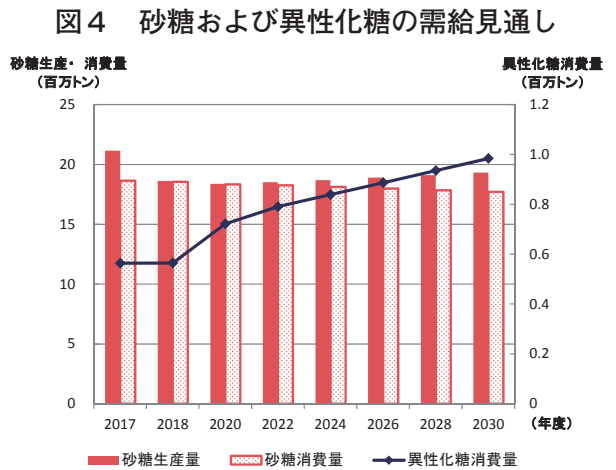
グラムとなる見込みである。結果的に、全体的な砂糖消費量は、2030年までに約5%減少し、1770万トンとなる見込みである（図4）。

砂糖の代替品として加工食品に利用される異性化糖

の消費量は今後増加し、2030年には100万トンに達すると予測されているものの、甘味料全体の消費量は、2030年までに約2%減少すると見込まれている。



資料：欧州委員会



資料：欧州委員会

表5 EUの砂糖需給の推移

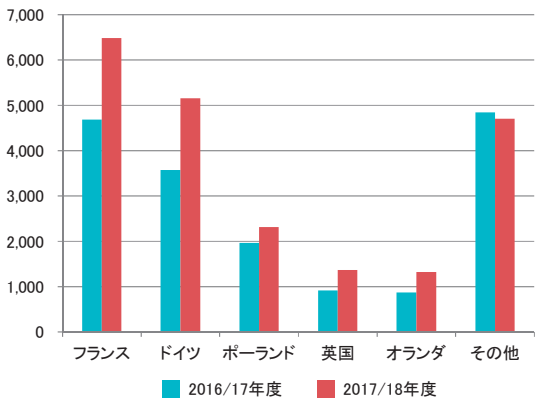
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,364	1,466	1,732	1,715	1,715	▲ 1.0
てん菜生産量	94,855	107,986	138,438	117,237	117,117	▲ 15.4
砂糖	生産量	14,937	17,069	18,763	18,793	▲ 13.1
	輸入量	3,651	3,115	1,848	1,848	6.7
	消費量	19,481	19,095	18,939	18,939	▲ 1.7
	輸出量	1,501	1,510	1,631	1,902	▲ 50.1
	期末在庫量	1,913	1,492	1,768	1,570	▲ 11.3
	期末在庫率	9.1	7.2	7.7	8.6	7.5
						0.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

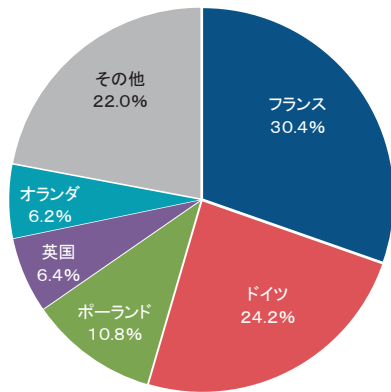
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2018年12月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：2017/18年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2019年2月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.9ポイント減）、タイが28.1%（同7.7ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。

本稿中の為替レートは2019年1月末日TTS相場の値であり、1豪ドル＝81円（80.96円）、1タイ・バーツ＝3.56円である。

豪 州

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3247万トン（同2.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：446万トン（同0.2%減）

輸出量：341万トン（同5.3%減）

2018/19年度、砂糖生産量はほぼ横ばい、 輸出量はやや減少の見込み

2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、39万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれるが、夏期にクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州で発生した干ばつの影響を受けて、生産量は、3247万トン（同2.6%減）とわずかな減少が見込まれている（表6）。しかし、乾燥気候によってサトウキビの糖度が上昇したことにより、砂糖生産量は、446万トン（同0.2%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は341万トン（同5.3%減）とやや減少すると見込まれている。

大手製糖業者マッカイ・シュガー社、ドイツ同業者に権益70%売却へ

豪州の大手製糖業者であるマッカイ・シュガー社は2月8日、欧州最大の製糖業者であるノルトツッ

カー社に6000万豪ドル（48億6000万円）で持ち株の70%を売却し、さらに最大6000万豪ドル（同上）の融資を受ける見込みであると発表した。ノルトツッカー社による出資は、製糖工場の生産能力向上や、持続可能な事業運営、生産者負担金の返済に充てられる。マッカイ・シュガー社は、粗糖を年間80万トン生産しているが、1億8000万豪ドル（145億8000万円）の負債を抱え、経営難に陥っていた。一方、ノルトツッカー社は、今回の買収によって、砂糖消費量が減少している欧州だけでなく、砂糖需要が伸びているアジア市場にも拠点を持つ狙いがある。

ノルトツッカー社による買収が実現するためには、マッカイ・シュガー社の株主の75%以上からの承認や、モスマン工場の売却などが条件となる。現地報道によると、4月に開催される臨時株主総会で株主による投票が行われる予定である。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	382	368	376	385	385	2.5
サトウキビ生産量	34,941	36,506	33,344	32,468	32,468	▲ 2.6
砂糖	生産量	4,889	4,797	4,455	4,455	▲ 0.2
	輸入量	164	68	29	29	0.0
	消費量	1,196	1,159	1,112	1,068	▲ 4.0
	輸出量	4,384	4,004	3,601	3,412	▲ 5.3
	期末在庫量	1,267	969	747	751	0.6
	期末在庫率	22.7	18.8	15.8	16.8	0.9 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.9%増）

生産量：1億2500万トン（同7.4%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1439万トン（同7.7%減）

輸出量：1335万トン（同32.5%増）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少する一方、輸出量は大幅増の見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、179万ヘクタール（前年度比0.9%増）とわずかに増加すると見込まれている。台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受けて、サトウキビ生産量は1億2500万トン（同7.4%減）、砂糖生産量は、1439万トン（同7.7%減）とかなりの減少が見込まれている（表7）。一方輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1335万トン（同32.5%増）と大幅な増加が見込まれている。

サトウキビ・砂糖基金の管理団体、サトウキビ農家への直接支援を開始

タイ政府は2018年10月10日、サトウキビの安定的な生産を確保するため、2018/19年度に156億バーツ（555億3600万円）規模の財政支援を決定したところであるが、その執行機関の一つ、サトウキビ・砂糖基金の管理団体は、2018/19年度の対策費として最大70億バーツ（249億2000万円）を計上する方針を固めた。同団体は、農業資材の購入に要する経費に充てるための資金として、2018/19年度の製糖が終了するころまでにサトウキビ1トン当たり53バーツ（189円）をサトウキビ農家に交付する予定である。

表7 タイの砂糖需給の推移

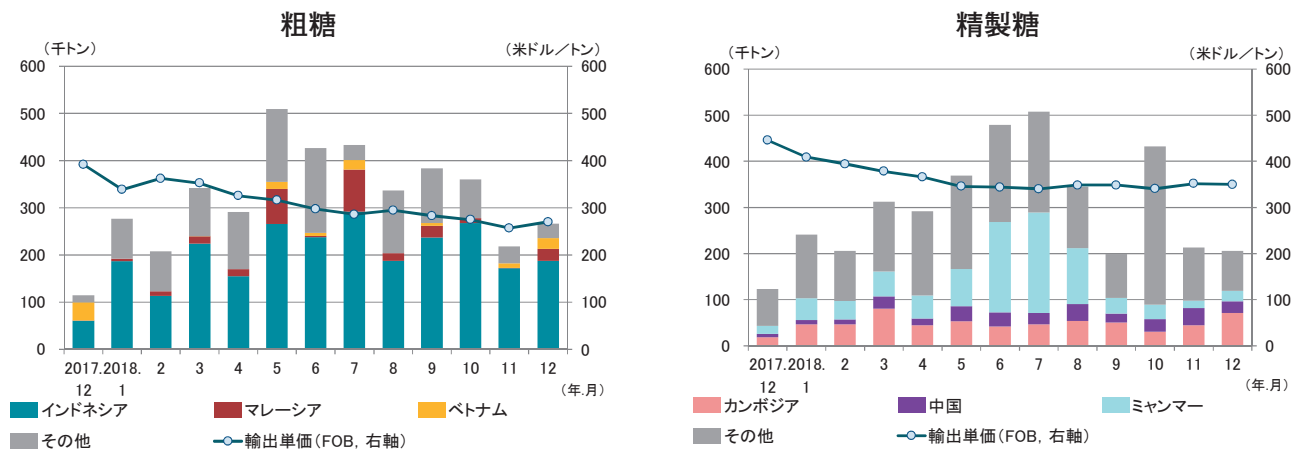
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (1月予測)	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,644	1,578	1,776	1,792	1,792	0.9
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	125,000	125,000	▲ 7.4
砂糖	生産量	10,402	10,657	14,385	14,385	▲ 7.7
	輸入量	1	0	2	2	▲ 65.0
	消費量	3,272	3,283	3,132	3,132	▲ 6.3
	輸出量	7,932	7,393	13,050	13,350	32.5
	期末在庫量	3,970	3,951	4,328	4,028	▲ 34.2
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	26.7	24.4
						21.2 ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

フィリピン

2018/19年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 42万ha (前年度比1.2%増)

生産量: 2400万トン (同0.6%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量: 223万トン (同6.8%増)

輸出量: 21万トン (同3.9%増)

2018/19年度、砂糖生産量はかなり増加、輸出量はやや増加の見通し

2018/19砂糖年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は、42万ヘクタール(前年度比1.2%増)とわずかに増加が見込まれ、生産量は2400万トン(同0.6%増)とほぼ横ばいで推移すると見込まれている(表8)。

1月の降雨量が平均より少なく推移したことでサ

トウキビ収穫のペースが早まったことも影響し、砂糖生産量は、223万トン(同6.8%増)とかなり増加する見込みである。輸出量については、21万トン(同3.9%増)とやや増加すると見込まれている。輸入量は、昨年フィリピン政府が砂糖の輸入規制を一時的に緩和したことで、国内の砂糖在庫が増加したことを受け、前回見込みから18.5%減少し、42万トン(同37.7%増)と見込まれている。

フィリピン政府、砂糖の輸入自由化を検討

国家経済開発庁は1月31日、消費者物価指数が政府の目標を上回って上昇を続け、特に食料品の価格が高騰していることを受け、農産物に対する輸入規制の緩和を検討すると発表した。砂糖については、関税の引き下げと合わせ、砂糖統制委員会（SRA：The Sugar Regulatory Administration）が実施してきた輸入許可制度を改め、輸入自由化に踏み切る可能性を示唆した。

現在、輸入される砂糖には、年間約6万4000トン（粗糖換算）までが50%、それを超えたものは65%の関税率が適用されているが、ベンジャミン・ディオクノ予算管理相は、「砂糖の関税率を30～

40%程度まで引き下げたい」と述べた。また、同相は「この水準まで関税率を引き下げても、国内のサトウキビ農家を十分保護できるだろう」との見解を示した。

国内の菓子業界は、砂糖の輸入自由化について賛成の意向を示している。フィリピン菓子・ビスケット・スナック協会（PCBSA：The Philippine Confectionery Biscuit and Snack Association）は、製品の原料である砂糖をより安く輸入したいという狙いから、関税率を25%に設定するよう政府に要求していると述べた。一方、国内の製糖業者は、今回の政府の意向に反対する姿勢を示している。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	413	421	418	423	1.2
サトウキビ生産量	23,254	28,052	23,861	24,000	0.6
砂糖	生産量	2,239	2,506	2,225	6.8
	輸入量	441	123	419	37.7
	消費量	2,347	2,277	2,386	2.4
	輸出量	168	283	213	3.9
	期末在庫量	526	594	491	10.0
	期末在庫率	20.9	23.2	17.6	18.9

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。